

わがまちの 台所事情

皆さんに納めていただいた税金や国・県からの補助金は、皆さんの生活環境をより良くするためにさまざまな形で使われています。

市では、昨年度どのような収入があり、どのような事業にお金を使ったのか、一般会計を中心にその概要をお知らせします。

決算の概要

市の18年度一般会計、特別会計、水道事業会計の決算がまとまり、9月に行われた市議会第3回定例会で認定されました。

いずれの会計においても歳入が歳出を上回る黒字決算となり、健全財政を維持することができました。そのうち一般会計は、19年度への繰越額を除いた実質収支が12億円余りの黒字となり、19年度の財源として確保することができました。

事業については、「ひとにやさしいまち・だれもが住んでみたいまち美濃加茂」を実現するため、高齢者対策や子育て支援、幹線道路や下水道の整備、安心安全な地域づくりのための防災事業、教育施設の整備、多文化共生社会の推進、観光資源の有効活用などの諸施策を実施しました。

また、13年度から継続していた東海環状自動車道工事残土処分事業会計は、事業の終了に伴い、18年度をもって廃止となりました。

歳入総額 178 億 8,712 万円

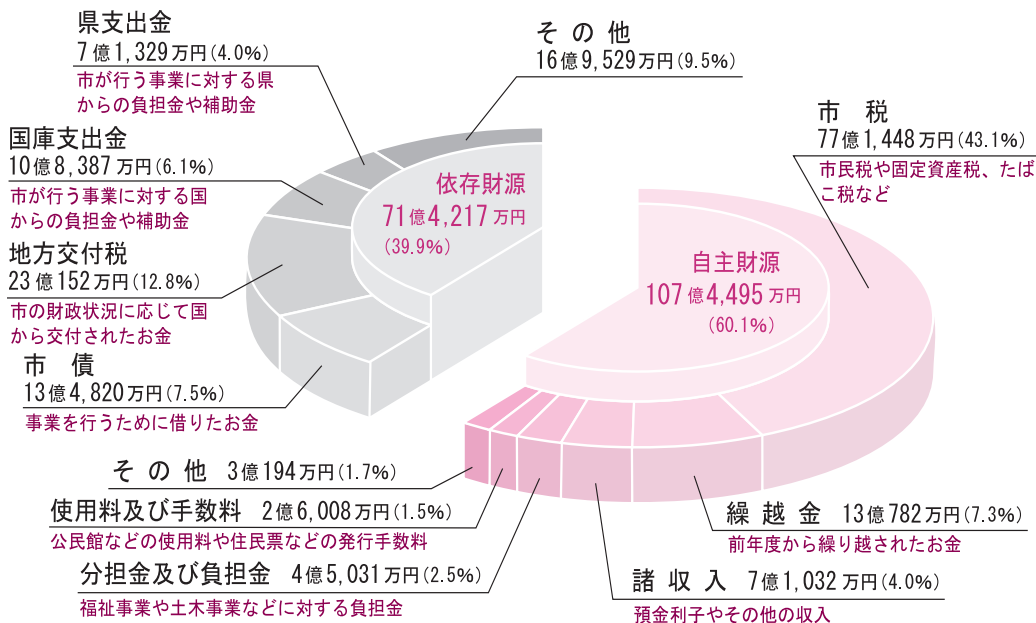
用語解説

■自主財源

市税や施設使用料、住民票発行手数料など、市が自主的に得る収入

■依存財源

国庫補助金や県補助金など、国や県の意思により、定められた額を交付されたり割り当てられたりする収入



歳入の概要

歳入決算額は、178億8,712万円です。前年度比3.1%の減となりました。主なもののうち、市税は固定資産税が評価替えの影響により前年度より1億5,850万円減額となったものの、市民税が税制改正や企業収益の回復により前年度より3億3,929万円増額し、全体では前年度比2.3%増の77億1,448万円となりました。また、地方交付税は前年度より5,459万円増額の23億1,520万円となり、国庫支出金は、太田宿中山道会館建設事業が17年度に完了したことなどにより前年度比28.9%減の10億8,387万円となりました。

市債は、交流センター事業の見直しや神明森山線事業費の減額などにより、前年度比24.1%減の13億4,820万円となりました。

基幹的な歳入の市税と地方交付税を合わせると1,00億1,600万円となり、全体の約56%を占めています。